

新大学における教育課程の編成の考え方及び特色（案）

1 教育課程の概要

本大学の教育課程は、大学の理念とそれに基づく教育目標を実現するため、「教養科目」と「キャリア教育科目」および「専門科目」の3つで構成されている。このうち「専門科目」は、役割の違いによって「専門共通科目」と「専門専攻科目」の2つに分類される。これに加え、「教職課程科目」および「博物館学芸員課程科目」をそれぞれ設けている。

「教養科目」は、人間の歴史や文化、社会や経済、自然科学の考え方や成り立ち、環境と人間の関わり等について幅広く学ぶことによって教養を培い、グローバルな視野や多角的な視点で物事をとらえるための基礎となる力を養うことを目標としている。

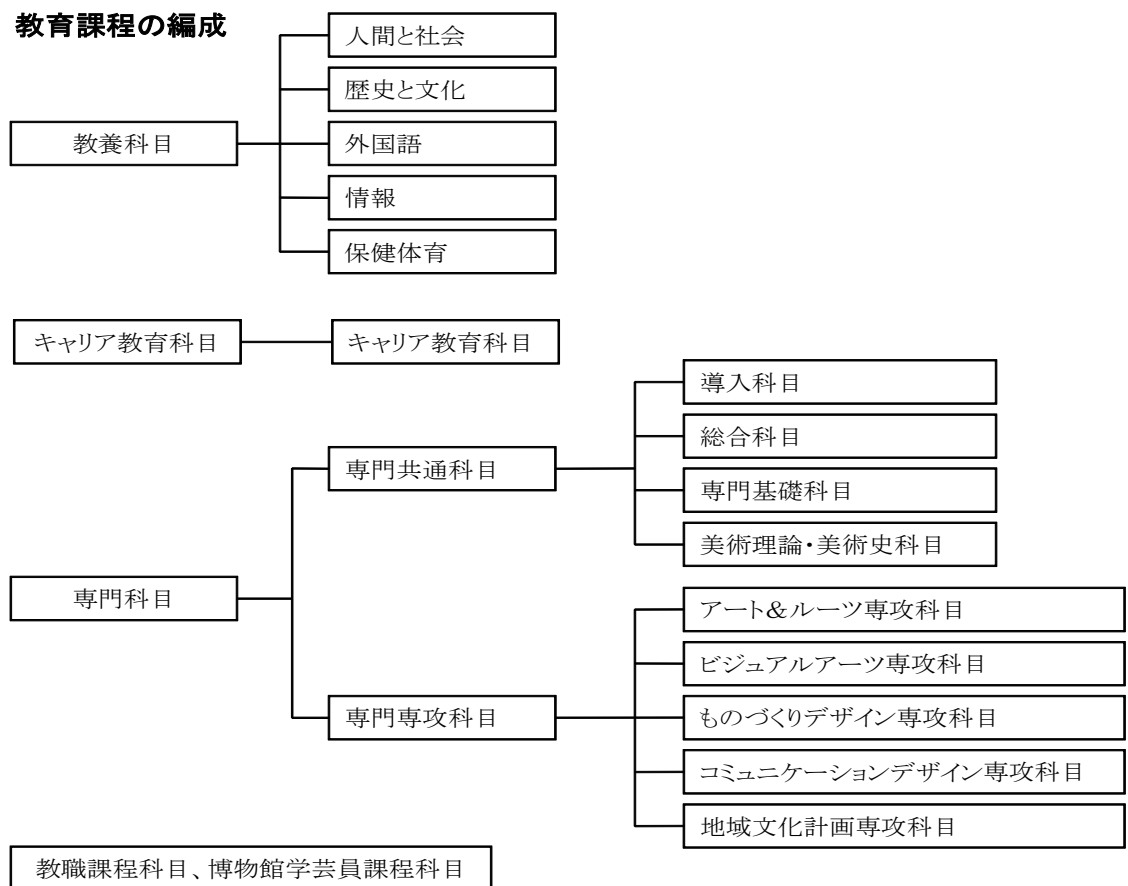
「キャリア教育科目」は、現代社会に生きる社会人・職業人として求められる教養、スキル、素養を身につけるとともに、卒業後アーティスト、デザイナーとなるために作品・プランなどをプレゼンテーションできる能力を身につけるなど、自らの将来をデザインするためにやるべきことを具体的に想像できるような教育、動機付けを行う。

「専門科目」における「専門共通科目」は、「導入科目」「総合科目」「専門基礎科目」「美術理論・美術史科目」で構成され、「絵画」「彫刻」「工芸」「デザイン」など素材や技法に基づいて専攻を区分するのではなく、「総合科目」において全体を横断的に学ぶとともに、「導入科目」「美術理論・美術史科目」「専門基礎科目」で必要とする科目を幅広く学ぶ。

これらのカリキュラム構成により、1・2年次に素材・技法を総合的に学び、学生自らの様々な可能性を模索しながら、学びたい分野や進むべき方向性の絞り込みを行い、3・4年次に自分の適性に合った専攻の「専門専攻科目」においてより高度な知識や技術を身に付ける。

具体的には、5つの専攻がそれぞれの「専門専攻科目」を担当し、「アート&ルーツ専攻科目」「ビジュアルアーツ専攻科目」「ものづくりデザイン専攻科目」「コミュニケーションデザイン専攻科目」「地域文化計画専攻科目」をそれぞれ開講する。

なお、学生は所属する専攻に対応した専門専攻科目を履修するだけでなく、「専門共通科目」として配置した幅広い分野の科目を併せて履修できるよう構成している。



2 教育課程編制の実際

(1) 教養科目

「教養科目」では、総合的な人間力を養成することを目標とし、社会生活や職業生活において求められる論理的な考え方や豊かな教養とスキルを学ぶ科目、文化人類学など文化と歴史を学び、東北・秋田ならではの独自の様式・手法を持つ美術・工芸・文化を学ぶ科目、国際化に対応した外国語コミュニケーション能力を育成するための科目、情報化に対する科目、健康的生活を維持するための保健体育科目により構成されている。

そのため、「人間と社会」「歴史と文化」「外国語」「情報」「保健体育」の5つの科目群に分類して、それぞれ4～15科目開設し、主に1～2年次に集中的に配当する。

この5科目群中、「人間と社会」と「情報」、「歴史と文化」、「外国語」の3グループからそれぞれ8単位以上、「保健体育」から2単位以上、計26単位以上を履修する。

なお、「教養を学んでから専門」という一方向的な単線的なシステムではなく、後に必要となった場合には、配当年次に拘わらず履修可能とする。

これらにより、学生の興味・関心に基づく選択を尊重しつつ、幅広く調和のとれた教養の習得を目指す。

ア 人間と社会

人間の考え方、心理に関する理解を深め、人間と社会の広がりや深さに触れ、考える機会を通して、豊かな人間性を涵養するとともに、人間が創造する芸術に対する理解の基礎となる科目を配置する。

このために、「哲学」「法学」「憲法」「論理学」「日本文学」「文芸演習」「心理学」「科学と人間（科学技術と人間）」「国際関係論」「環境と生態」「地域産業とデザイン」「経済学」の12科目を開講する。

イ 歴史と文化

人間の文化・歴史に関する理解を深め、人間と文化の広がりや深さを考える機会を持つことによって教養を養うとともに、その後の「専門課程」につながる知識と考え方を学ぶ。

具体的には文化と歴史など秋田・東北ならではの独自の様式・手法を持つ美術・工芸・文化を題材にして学ぶと共に、外国や異文化を背景とする地域社会の交流や連携に関わる課題の本質について、具体的な事例に基づき理解を深める科目を配置する。

このため、「文化人類学」「自然文化史」「日本史」「民俗学」「東北生活文化論」「生活とデザイン」「食文化論」「方言と民話」「道具から見た生活様式」「文化人類学特論」「異文化コミュニケーション論」の11科目を開講する。

ウ 外国語

異なる国や地域の伝統や文化を理解し、それらの国や地域の人々とコミュニケーションを図るための実用的なスキルを養う。

特に英語については、外国人とコミュニケーションをする際に国際的な標準言語となっており、海外のコンペティション、公募展への作品応募でも利用するなどアーティスト、クリエイターとして必要な基礎能力であることから必修科目として重視し、「総合英語1～4」の4科目、「英会話1～4」の4科目、「実用英語1～2」の2科目、「英文購読」の合計11科目を開講する。

また、美術界において近年注目される東アジアに対する理解を深め、将来的な大学間の学生交流に対応できるよう「ハングル語1～2」の2科目、「中国語1～2」の2科目を開講し、基礎学力を身につけさせる。全15科目を開講する。

エ 情報

情報数学の基礎的事項として、論理数学、数値表現等を学習し、コンピュータの仕組みや原理、コンピュータグラフィックスの基本やプログラミングについて学びながら、汎用性の高いコンピュータ言語としてJava言語などを学び、論理的な考え方に基づく発想力と幅広い知識を身につけ、美術デザインのコンピュータを用いた手法に対応出来るよう「情報数学入門」「プログラミング入門」「プログラミング演習1・2」の全4科目を開講する。

オ 保健体育

様々なスポーツ活動における運動学習を通じて、健康に留意した学生生活

と体力を身につけるために「スポーツと健康1～4」の全4科目を開講する。

(2) キャリア教育科目

「キャリア教育科目」は、現代社会に生きる社会人・職業人として、自分がどのように生き、どのような職業を選択するのか、そのためには何を学ぶべきなのかといった専攻分野と将来の職業選択の結びつきを理解し、職業意識の確立と学習の動機付けを深め、社会生活や職業生活の上で求められている知識、スキルなどを身につけることを目的としている。

「キャリアデザイン1・2」においては、自己理解に立って主体的に職業生活を描く能力としての自己管理能力や、卒業後も自立して学習を続ける生涯学習力を養う。

「プレゼンテーション演習1」においては、ポートフォリオ作成を行いながらプレゼンテーション技法や、レポート作成、文献検索、討論方法等を平易な題材をもとに演習を通して学習する。

「日本語表現演習」においては、必要不可欠である正しい日本語表現に基づく的確な文章表現能力を学ぶ。

また、「情報リテラシー1・2」においては、情報化社会において必要となるスキルとして、本学の情報システムを例とした情報システムの利用方法とそのルール、表計算ソフトおよびプレゼンテーションソフトの初歩的操作から応用的な操作、コンピュータネットワークから情報セキュリティ、情報検索の効果的手法まで幅広く学び、セキュリティを確保しながらインターネット等へ自らの作品などを広く情報発信できることを目標とする。

「地域プロジェクト演習1・2」では、地域の課題に取り組み、現状把握から今後解決すべき課題設定やアイデア展開を経て、本大学で学んだことをそれぞれの地域・企業などにどのように生かせるのかを考える演習を行う。

これらの加え「経営論」「アートアドミニストレーション演習」「学外実習(インターンシップ)」など全11科目を開講する。

(3) 専門科目

「専門科目」は、新大学における美術専門教育を特色づける科目群であり、美術に関連する基礎的な理論や技術から、より専門性の高い知識や技術、実践的・発展的な知識・技法まで体系的に学習することができるよう構成されている。役割の違いによって「専門共通科目」と「専門専攻科目」に分類され、「専門共通科目」の基礎・基本的かつ分野横断的な表現技術を身につけた学生が、「専門専攻科目」においてより深く学ぶとともに、自らの表現の幅を広げるため他領域の表現方法の学習を、「専門共通科目」で学ぶことを可能とするよう構成されている。

ア 専門共通科目

「専門共通科目」は、美術教育の導入部分であるとともに、3年次以降所

属する「専攻」の専門教育を補完する役割とともに、学生が「共通科目」を自由に選択することによって、各「専攻」の専門教育が分野限定的に自己完結することを防ぐ科目群でもある。1年次と2年次の学生に、早い段階から専門的な美術教育を提供する役割も担う。

専門分野において培われた専門的な知識・技術は専門分野内においてのみ占有され、「縦割り」の傾向が強かったことから、その知識・技術を「専門共通科目」という形にして学生全員が学ぶことができる共通科目とした。

これにより、自らが専門とする分野とは異なる分野の専門的知識・技術を習得し、自己表現の幅を拡大させることを目標としている。

(7) 導入科目

「導入科目」は、大学に入学してきたばかりの学生に対する導入部分を担い、円滑に専門技法の学習へと適応するために、基礎・基本的な技法を習得するとともに、自らの美術・デザイン分野における適性を見出す役割を果たす科目群である。

導入科目として、「素描表現」「塑造表現1」「デザインスケッチ演習」「色彩論」「図学・製図演習」「写真基礎演習」「デザイン基礎演習」「絵画材料演習」「構成演習1・2」を配置したほか、「コンピュータ表現基礎」「コンピュータ表現演習」では、美術・デザインの基本的ツールであるコンピュータによる表現方法を学び、「工芸演習1・2」では工芸分野の基本的な技法等を学ぶ。また「デザインワークショップ演習1」ではワークショップ技法を学ぶ。全15科目を開講する。

(8) 総合科目

「総合科目」は、本大学のカリキュラム構成を最も特徴づけるものであり、1年次から2年次にかけて、美術・工芸・デザインなど本大学が範囲とするすべてを横断的に学び、多くの素材・技法に関する基礎的な技術を経験することで、学生が自らの様々な可能性を模索し、学びたい分野や進むべき方向性を絞り込みむことを可能とする科目群である。また、3年次に専攻を1つに絞るための科目群でもある。

具体的には、学生全員が1年次後期と2年次前期に「現代芸術論1」「現代芸術論2」を必修科目として履修し、本大学の美術学科を構成する5専攻すべての理論を網羅的に学ぶ。その後の2年次後期「現代芸術演習」では、5専攻から2つ専攻を選択し、3年次における専攻決定に向けた準備として、学びたい分野や進むべき方向性を絞り込むものである。全9科目を開講する。

(9) 専門基礎科目

今日、アート・デザインの世界においては、ジャンル同士の出会いと融合により新たな展開と多様化を示し、ダイナミックに変化している。本大学の専門教育では、それを踏まえ、学生が各「専攻」の専門教育に自己完結することなく、横断的に他の領域を学び、互いの分野から刺激を受けて表現の広がりが新たな発想へと繋がる様に、「専門基礎科目」を配置した。

これらの科目は、アート・デザイン等の理論的・実践的基礎となる専門知識を培い、視野を広げ、確実に基礎・応用を身に付けるとともに、複数の

領域にまたがる科目を履修することで幅広い分野に対応することができる能力を養う科目群である。

具体的には、「日本画基礎演習」「油画基礎演習」「彫刻基礎演習」「メディアアート基礎演習」「素材と表現」「ものづくり製図演習」「DTPデザイン演習」「映像デザイン基礎」「情報デザイン概論」「構成論」「色彩演習」「立体デザイン演習」「空間スケッチ演習」「デザインワークショップ演習2」「英語による現代美術評論入門」「英語による現代美術評論演習」「現代絵画素材演習」「塑造表現2」「立体造形素材演習」「身体表現（パフォーマンス）演習」「現代絵画ポップアート演習」「テキスタイル表現演習」「イラストレーション演習」「メディアアート演習」「グラフィックデザイン基礎」「ウェブデザイン基礎演習」「タイポグラフィ基礎演習」「デザインサーベイ」「建築モデル演習」「商品計画演習」「知的財産と運用」「色彩計画演習」「映像デザイン演習」「3D・CG表現演習1・2」「建築プレゼンテーション演習」「CAD演習1（建築）」「ブックデザイン」「建築文化財論演習」の全39科目を開講する。

(I) 美術理論・美術史科目

「美術理論・美術史科目」は、美術・デザイン・工芸などの専門理論を学ぶとともに、日本・東洋・西洋の美術史について体系的に学び、多角的・時間的な視点を獲得することで、その後の専門分野を学ぶ上でより深い理解に至るいわば土台として位置づけられる科目群である。このため、この科目群を重視する意味で独立させ、広く履修できるようにしている。

美術理論として「美術理論・美術史1・2」「デザイン概論」「工芸概論」、美術史として「日本美術史1・2」「西洋美術史1・2」「東洋美術史1・2」「東洋工芸史1・2」「近代絵画史」「日本彫刻史」「建築史」「日本建築史1・2」「建築史演習」「近代建築史特講」「デザイン史特講1・2」「バウハウス芸術史」「バウハウス芸術論演習」「近代装飾デザイン史」「近代装飾デザイン論演習」「シルクロード図像学1・2」の全27科目を開講する。

イ 専門専攻科目

「専門専攻科目」は、美術専門教育の基幹をなすものであり、本大学の教育目標の実現とより専門性の高い知識や技術、実践的・発展的な知識・技法を学ぶ科目群である。

具体的には、「アート&ルーツ専攻科目」「ビジュアルアーツ専攻科目」「ものづくりデザイン専攻科目」「コミュニケーションデザイン専攻科目」「地域文化計画専攻科目」の5つの専攻の科目群を設置する。

学生は、必修の「総合科目」において、本大学の美術教育全体を網羅的に学んだ上で、「現代芸術演習」で自らの目指す専攻を2つに絞り、その上で3年次から1つの専攻の専門専攻科目を選択するものである。

なお、専攻の選択にあたっては、専攻に掲げる内容に基づいた履修モデルを作成し、具体的な学習過程を学生に十分理解させるとともに、入学時から専攻制を意識したガイダンスを実施するほか、専攻選択時に履修指導・履修相談を行うことにより、学生が将来目指す進路に合致する専攻を選択できるようにするほか、専門共通科目から他分野に関連する科目を横断的に選択することも可能である。

(7) アート&ルーツ専攻科目

この専攻科目は、地域固有の文化資源である文化的ルーツ（以下、ルーツ）を掘り起こし、そのルーツを根源とする新しい芸術表現の探求を目的とし、地域の歴史に堆積するルーツから、その今日的解釈を通して、学生が歴史と文化に対する深い洞察力を養う科目群である。

具体的には、理論系教員と実技系教員とが連携して、秋田の歴史的な古層に埋もれてきた「縄文遺跡」や「蝦夷の地名」、近代化の影で忘れられてきた「祭礼」、「民話」、「里山生活」など地域社会のルーツを作品制作のテーマとして設定する。テーマが課せられると、学生は理論系教員のもとでルーツの調査研究を実施し、実技系教員のもとでその成果に立脚した作品を制作する。実技系教員は制作方法の点でも、古典的な材料や技術の再現と研究に基づいた指導を「アート&ルーツ演習1～3」および「アートプロジェクト演習」で行う。全4科目を開講する。

(4) ビジュアルアーツ専攻科目

この専攻科目は、「現代を表現する」という目的のもと、日本画、油画、工芸といった従来のメディア別ジャンルに替わって、メディアに拘束されない絵画、多種類の物質が使用されるインスタレーションや立体作品、そして、デジタルメディアによる映像作品や、絵本、写真、身体表現（パフォーマンス）などの新しいジャンルを学ぶ科目群である。

「ビジュアルアーツ演習1・素材と表現法の研究」「ビジュアルアーツ演習2・素材と表現法の融合」「ビジュアルアーツ演習3・制作（素材・表現の確立）と思想の融合」「古美術研究」の全4科目を開講する。

(5) ものづくりデザイン専攻科目

この専攻科目は、現代生活が必要とするインテリア製品、家具、テーブルウェアから、服飾、装身具、置物までのさまざまな「もの」を対象とし、人が「もの」に対して歴史的に求めてきた安心感、重厚感、身体との適応感など「もの」に本来備わるべき「使用感の充足」という価値を造形化する科目群である。

素材技法の学習は、「木材・漆工」、「彫金」、「ガラス・陶磁」、「染色」の実技演習が担う。使用感の充足の探求は、地方文化に固有のものづくりから、その独自の造形的感性を抽出する演習等によっておこなわれ、「ものづくりデザイン演習1、2」において「彫金」「ガラス」「陶芸」「漆」「木工」「染」「家具」「椅子」として行った後に「ものづくりデザイン演習3」でより高度な理論・技法を学ぶ。

併せて地域産業の実際のニーズを把握する「地域産業演習」のほか、「ユニバーサルデザイン演習」「2D・3D CAD演習」「プレゼンテーション演習2」の全19科目を開講する。

(6) コミュニケーションデザイン専攻科目

この専攻科目は、デジタル環境の急速な発展によりコミュニケーションの手段がめまぐるしく多様化する現代において、細分化された個々のカテゴリ

一における職人的なデザイナーの世界から総合的な視野と表現スキルを有するゼネラリストの活躍する世界に対応するため、ポスターや新聞、雑誌等の印刷メディアからインターネットや映像メディアなどを広く網羅したコミュニケーションデザインを学ぶ科目群である。

この専攻の教育は、「考えること」からスタートし、その上で、より精度の高いコミュニケーションデザインの習得を目指すとともに、様々な技法や手段を追究しながら、自身のクリエイティビティを最大限に発揮でき得る表現を模索し、それを社会との関係性の中で具体的な成果物として提案するとともに、日常生活や社会情勢の中からテーマを見出し、様々なデザイン技法を駆使して企画し制作する総合的なディレクションについて学ぶ。

3年次にこの専攻を選択する学生は、そのときまでに修得した基礎知識を応用・展開してオリジナリティのあるデザイン制作を実践する。ポスターをはじめ、書籍や雑誌等の編集デザイン、タイポグラフィ、商品パッケージ、ウェブサイト等、様々なカテゴリーの課題制作を経験し、自分の技能を高めながら表現の可能性を追求していく。

具体的には「コミュニケーションデザイン演習1」として3年次に「タイポグラフィ」「ポスター」「イラストレーション」「パッケージデザイン」「ウェブデザイン」「エディトリアルデザイン」のすべてを学んだ後、4年次前期に「コミュニケーションデザイン演習2」として、それらから1つを選択し学ぶ。全12科目を開講する。

(f) 地域文化計画専攻科目

この専攻科目は、人口減少と産業衰退が進行する地方都市に、デザインの観点から①地域に残る固有の文化資源である自然・文化財・人を統合的に結びつけ、新旧の住宅・商業家屋・公共施設を連繫させ固有の地域文化を演出する「建築デザイン」の観点。②地域の自然・建造物・文化遺産などを連続する景観と見なし、地域文化の個性を創りだす「景観デザイン」の観点。③農水産物、地場産品から、文化財など地域の文化資源の今日的価値を見いだす「文化資源デザイン」の観点の3つの観点から、今後の地域のあり方をデザイン計画として調査・研究・発表をしながら学ぶ科目群である。

「地域文化計画演習1・2」において、「建築デザイン」、「景観デザイン」、「文化資源デザイン」すべての内容を学ぶとともに、地域文化が抱える問題の解決策を、フィールドワークや関係者とのワークショップを通して学び、「地域文化計画演習3」においてより高度な内容を学ぶ。

併せて「文化行政学」「都市デザイン論」「CAD演習2(景観)」などを学ぶ。全8科目を開講する。

(g) 卒業研究

4年間の学習成果の集大成として、4年次後期に「アート&ルーツ専攻」「ビジュアルアーツ専攻」「ものづくりデザイン専攻」「コミュニケーションデザイン専攻」「地域文化計画専攻」それぞれにおいて、学生自身の自己表現の確立を目標に作品制作又は論文作成を「卒業研究」として行い、発表する。

(4) 教職課程科目

本大学では、教職課程を設置し中学校教諭一種免許状（美術）・高等学校教諭一種免許状（美術・工芸）の取得を可能とする。全23科目を開講する。

(5) 博物館学芸員課程科目

本大学では、博物館学芸員課程を設置し、学芸員資格に必要な単位取得を可能とする。全9科目を開講する。

教育課程のイメージ図

資料1-1

1年前期

1年後期

2年前期

2年後期

3年前期

3年後期

4年前期

4年後期

教養科目 (人間と社会、歴史と文化、外国語、情報、保健体育)

キャリア教育科目

専門科目

卒業に必要な単位数：
合計124単位

専門共通科目

導入科目

総合科目

現代芸術論1A・B
(アート&ルーツ・地域
文化計画、ものづくり)

現代芸術論2A・B
(ビジュアルアーツ、コミュ
ニケーションデザイン)

現代芸術演習
(5専攻分)

専門基礎科目

美術理論・美術史科目

専門専攻科目

(アート&ルーツ科目、ビジュアルアーツ科目、ものづくりデザイン
科目、コミュニケーションデザイン科目、地域文化計画科目)

卒業
研究

教職課程科目

博物館学芸員課程科目

新大学教育課程(案)

(秋田公立美術大学(仮称) 美術学部美術学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			必要単位
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
教養科目									
人間と社会	哲学	1前	2						人間と社会科目と情報科目から8単位以上取得
	法学	1前	2						
	憲法	1前	2						
	科学と人間(科学技術と人間)	1前	2						
	論理学	1前	2						
	文芸演習	1前	2						
	日本文学	1後	2						
	心理学	1後	2						
	国際関係論	2前	2						
	環境と生態	2前	2						
	地域産業とデザイン	2後	2						
	経済学	3前	2						
小計(12科目)			24						
歴史と文化	自然文化史	1前	2					歴史と文化科目から8単位以上取得(うち必修2単位)	
	日本史	1前	2						
	民俗学	1前	2						
	東北生活文化論	1前	2						
	生活とデザイン	1後	2						
	食文化論	2前	2						
	文化人類学	2前	2						
	方言と民話	2前	2						
	道具から見た生活様式	2後	2						
	文化人類学特論	3前	2						
	異文化コミュニケーション論	3前	2						
小計(11科目)		2	20						
外国語	総合英語 1	1前	2				外国語科目から8単位以上取得(うち必修4単位)		
	総合英語 2	1後	2						
	総合英語 3	2前	2						
	総合英語 4	2後	2						
	英会話 1	1前	2						
	英会話 2	1後	2						
	英会話 3	2前	2						
	英会話 4	2前	2						
	実用英語 1	1前	2						
	実用英語 2	1後	2						
	英文講読	2前	2						
	ハンゲル語 1	1前	2						
	ハンゲル語 2	1後	2						
	中国語 1	1前	2						
	中国語 2	1後	2						
小計(15科目)		4	26						
情報	情報数学入門	1後	2				人間と社会科目と情報科目から8単位以上取得		
	プログラミング入門	2前	2						
	プログラミング演習 1	3前	2						
	プログラミング演習 2	3後	2						
小計(4科目)			8						
保健体育	スポーツと健康 1	1前	1				体育から2単位以上取得		
	スポーツと健康 2	1後	1						
	スポーツと健康 3	2前	1						
	スポーツと健康 4	2後	1						
小計(4科目)			4						
中計(46科目)		88	-	6	82		-	教養科目から26単位以上取得(うち必修6単位)	

キャリア教育科目

キャリア教育科目	情報リテラシ - 1	1前	2				8単位以上取得(うち必修4単位)	
	アートアドミニストレーション演習	1前	2					
	日本語表現演習	1前	2					
	情報リテラシ - 2	1後	2					
	経営論	2前	2					
	キャリアデザイン 1	2後	2					
	プレゼンテーション演習 1	2後	2					
	キャリアデザイン 2	3前	2					
	学外実習(インターンシップ)	3前	2					
	地域プロジェクト演習 1	3前	2					
	地域プロジェクト演習 2	3後	2					
中計(11科目)		22	-	4	18		-	キャリア教育科目から8単位以上取得

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			必要単位
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	

専門科目（専門共通科目）

総合科目	現代芸術論 1A (ア&ル、地域文化計画)	1後	2							現代芸術論 1・2 は必修。 現代芸術演習は 5 科目中 2 科目の選択必修。 総合科目から 1 2 単位取得
	現代芸術論 1B(ものづくり)	1後	2							
	現代芸術論 2A(ビジュアル)	2前	2							
	現代芸術論 2B(コミュニケーション)	2前	2							
	現代芸術演習A(アート&ルーツ)	2後	2							
	現代芸術演習B(ビジュアル)	2後	2							
	現代芸術演習C(ものづくりデザイン)	2後	2							
	現代芸術演習D(コミュニケーションデザイン)	2後	2							
現代芸術演習E(地域文化計画)	2後	2								
小計(9科目)	18	-	8	10						
導入科目	素描表現	1前	2							基礎科目から 1 2 単位以上取得(うち必修 4 単位)
	塑造表現 1	1前	2							
	デザインスケッチ演習	1前	2							
	色彩論	1前	2							
	図学・製図演習	1前	2							
	写真基礎演習	1前	2							
	コンピュータ表現基礎	1前	2							
	絵画材料演習	1後	2							
	構成演習 1	1後	2							
	構成演習 2	1後	2							
	デザイン基礎演習	1後	2							
	コンピュータ表現演習	1後	2							
	工芸演習 1(教職課程)	1後	2							
	工芸演習 2(教職課程)	1後	2							
	デザインワークショップ演習 1	1後	2							
小計(15科目)	28	-	4	24						
美術理論・美術史科目	美術理論・美術史 1	1前	2							美術理論・美術史科目から 1 2 単位以上取得(うち必修 8 単位)
	デザイン概論	1前	2							
	日本美術史 1	1前	2							
	西洋美術史 1	1前	2							
	東洋美術史 1	1前	2							
	東洋工芸史 1	1前	2							
	美術理論・美術史 2	1後	2							
	日本美術史 2	1後	2							
	西洋美術史 2	1後	2							
	東洋美術史 2	1後	2							
	東洋工芸史 2	1後	2							
	近代絵画史	1後	2							
	建築史	1後	2							
	工芸概論	2前	2							
	デザイン史特講 1	2前	2							
	バウハウス芸術史	2前	2							
	日本建築史 1	2前	2							
	日本彫刻史	2前	2							
	デザイン史特講 2	2後	2							
	バウハウス芸術論演習	2後	2							
日本建築史 2	2後	2								
近代装飾デザイン史	3前	2								
シルクロード図像学 1	3前	2								
建築史演習	3前	2								
近代建築史特講	3前	2								
近代装飾デザイン論演習	3後	2								
シルクロード図像学 2	3後	2								
小計(27科目)	54	-	8	46						
専門基礎科目	日本画基礎演習	2前	2							美術専門基礎科目から 1 2 単位以上取得
	油画基礎演習	2前	2							
	彫刻基礎演習	2前	2							
	メディアアート基礎演習	2前	2							
	素材と表現	2前	2							
	ものづくり製図演習	2前	2							
	DTPデザイン演習	2前	2							
	映像デザイン基礎	2前	2							
	情報デザイン概論	2前	2							
	構成論	2前	2							
	色彩演習	2前	2							
	立体デザイン演習	2前	2							
	空間スケッチ演習	2前	2							
	デザインワークショップ演習 2	2前	2							
	英語による現代美術評論入門	2前	2							
	現代絵画素材演習	2後	2							
	塑造表現 2	2後	2							
	立体造形素材演習	2後	2							
	身体表現(パフォーマンス)演習	2後	2							
	現代絵画ポップアート演習	2後	2							
テキスタイル表現演習	2後	2								
イラストレーション演習	2後	2								
メディアアート演習	2後	2								
グラフィックデザイン基礎	2後	2								
ウェブデザイン基礎演習	2後	2								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			必要単位
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
	タイポグラフィ基礎演習	2後		2					
	デザインサーベイ	2後		2					
	建築モデル演習	2後		2					
	商品計画演習	2後		2					
	知的財産と連用	2後		2					
	英語による現代美術評論演習	2後		2					
	色彩計画演習	3前		2					
	映像デザイン演習	3前		2					
	3D・CG表現演習1	3前		2					
	建築プレゼンテーション演習	3前		2					
	CAD演習1(建築)	3前		2					
	ブックデザイン	3後		2					
	3D・CG表現演習2	3後		2					
	建築文化財論演習	3後		2					
	小計(39科目)	78	-	0	78				
	中計(90科目)	178	-	20	158				専門共通科目から48単位以上取得(うち必修20単位)

専門科目(専門専攻科目)

専門科目 専門専攻科目	アート&ルーツ	アート&ルーツ演習1	3前	12					専攻内必修	
		アート&ルーツ演習2	3後	10					専攻内必修	
		アートプロジェクト演習	3後	2					専攻内選択	
		アート&ルーツ演習3	4前	12					専攻内必修	
		小計(4科目)	36		36			-	専攻内34単位以上取得	
	ビジュアルアート	古美術研究	3後	2					専攻内必修	
		ビジュアルアーツ演習1 素材と表現法の研究	3前	12					専攻内必修	
		ビジュアルアーツ演習2 素材と表現法の融合	3後	12					専攻内必修	
		ビジュアルアーツ演習3 制作(素材・表現の確立)と思想の融合	4前	8					専攻内必修	
		小計(4科目)	34		34			-	専攻内34単位以上取得	
	ものづくりデザイン	ものづくりデザイン演習1A(彫金)	3前	4					演習1は7科目中2科目を専攻内選択必修(8単位)	
		ものづくりデザイン演習1B(ガラス)	3前	4						
		ものづくりデザイン演習1C(陶芸)	3前	4						
		ものづくりデザイン演習1D(漆)	3前	4						
		ものづくりデザイン演習1E(木工)	3前	4						
		ものづくりデザイン演習1F(染)	3前	4					演習2は7科目中2科目が専攻内選択必修(8単位)	
		ものづくりデザイン演習1G(家具)	3前	4						
		地球産業演習	3前	2						専攻内必修
		ユニバーサルデザイン演習	3前	2						専攻内必修
2D・3DCAD演習		2後	2					専攻内必修		
プレゼンテーション演習2		3前	2					専攻内必修		
ものづくりデザイン演習2A(彫金)		3後	4							
ものづくりデザイン演習2B(ガラス)		3後	4							
ものづくりデザイン演習2C(陶芸)		3後	4							
ものづくりデザイン演習2D(漆)		3後	4							
ものづくりデザイン演習2E(木工)	3後	4								
ものづくりデザイン演習2F(染)	3後	4								
ものづくりデザイン演習2G(椅子)	3後	4								
ものづくりデザイン演習3	4前	10					専攻内必修			
	小計(19科目)	74		74			-	専攻内34単位以上取得		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			必要単位	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
コミュニケーションデザイン	ウェブデザイン概論	3前		2					専攻内必修	
	コミュニケーションデザイン演習1A(タペグラフィ)	3前		4					演習1は3科目とも専攻内必修(12単位)	
	コミュニケーションデザイン演習1B(ポスター)	3前		4						
	コミュニケーションデザイン演習1C(イラストレーション)	3前		4						
	コミュニケーションデザイン演習1D(パッケージデザイン)	3後		4						
	コミュニケーションデザイン演習1E(ウェブデザイン)	3後		4					演習2は3科目とも専攻内必修(12単位)	
	コミュニケーションデザイン演習1F(インテリアデザイン)	3後		4						
	コミュニケーションデザイン演習2A(タペグラフィ)	4前		8						
	コミュニケーションデザイン演習2B(ポスター)	4前		8					演習3は5科目中1科目を専攻内選択必修(8単位)	
	コミュニケーションデザイン演習2D(パッケージデザイン)	4前		8						
	コミュニケーションデザイン演習2E(ウェブデザイン)	4前		8						
	コミュニケーションデザイン演習2F(インテリアデザイン)	4前		8						
	小計(12科目)	66		66			-		専攻内34単位以上取得	
	地域文化計画	地域文化計画演習1	3前		8					専攻内必修
		文化行政学	3前		2					専攻内必修
都市デザイン論		3前		2					専攻内必修	
CAD演習2(景観)		3後		2					専攻内必修	
地域文化計画演習2		3後		10					専攻内必修	
地域文化計画演習3A(文化資源デザイン)		4前		10					演習3は3科目中1科目を専攻内選択必修	
地域文化計画演習3B(建築デザイン)		4前		10						
地域文化計画演習3C(景観デザイン)		4前		10						
小計(8科目)	54		54			-		専攻内34単位以上取得		
卒業研究	卒業研究	4後	8						必修	
	中計(48科目)	272	8	264						
合計(197科目)		560	-	38	522			-	卒業所要単位 124単位以上	

教職課程科目

教職課程科目	教職論	1前		2					
	道徳教育	1前		2					
	教育学原論1	1後		2					
	教育課程・方法論	1後		2					
	介護体験の意義	1後		2					
	造形表現基礎(デッサン)	1後		2					
	絵画1	1後		2					
	教育心理学1	2前		2					
	生徒指導・進路指導	2前		2					
	絵画2	2前		2					
	絵画表現演習1	2前		2					
	美術科教育法概論	2前		2					
	教育学原論2	2後		2					
	教育相談	2後		2					
	美術科指導法	2後		2					
	工芸科教育法概論	2後		2					
	絵画表現演習2	2後		2					
	教育心理学2	3前		2					
	特別活動研究	3前		2					
	美術科指導法演習	3前		2					
	工芸科指導法	3前		2					
	教職実践指導	3後		2					
	教育実習	4前		5					
合計(23科目)	49	-	49			-			

博物館学芸員課程科目

博物館学芸員課程科目	生涯学習概論	1後		2					
	博物館概論	1後		2					
	博物館教育論	1後		2					
	博物館資料論	2前		2					
	博物館資料保存論	2前		2					
	博物館経営論	2後		2					
	博物館展示論	2後		2					
	博物館情報論・IT論	3前		2					
	博物館実習	4前		3					
	合計(9科目)	19	-	19			-		